



## ～ 伝統の継承と発展② ～

# 久留米絣の「これまで」と「これから」

広川町の特産品「久留米絣」。日本三大絣の一つで、国内外に多くのファンがいます。今回の特集では、日本を代表する織物である「久留米絣」の歴史を振り返り、それを継承し発展させていこうと奮闘する生産者にお話を伺いました。

圏産業課商工観光係 ☎ 0943-32-1841



### 創始者は12歳の少女! 久留米絣誕生の背景

江戸幕府が開府してから180年が経過しようとする天明8年（1788年）、当時の久留米藩の城下町に、一人の少女が生まれました。彼女の名前は井上伝。伝は幼少時から縫い物が好きで、12歳ころになると大人も及ばないほど木綿織りの技術が上達していました。そして、13歳で久留米絣の技法を発案し、15歳のときには20人以上の弟子がいたそうです。

久留米絣誕生のきっかけは、色あせた古着の白い斑点模様に着目し、布を解いて模様の秘密を探ったことにあります。その結果、糸を括って藍で染め、織り上げて模様を生み出すことを考案したのです。

### 庶民の普段着として定着

その後、南筑後地方では久留米絣の生産効率化が進み、農家の副業として盛んに織られるようになります。明治時代に入ると、庶民の普段

着として定着し、全国で愛用されるまでになりました。昭和中期には生産のピークを迎え、312戸の織元から120万反以上もの久留米絣が出荷されていました。

### 伝統工芸品としての久留米絣

井上伝をはじめ、多くの人々の創意工夫で発展した久留米絣は、歴史的・芸術的価値が高く評価され、昭和32年に国の重要無形文化財に指定されました。

現在も、日本を代表する伝統工芸品として、国内のみならず、海外でも高い評価を受けています。

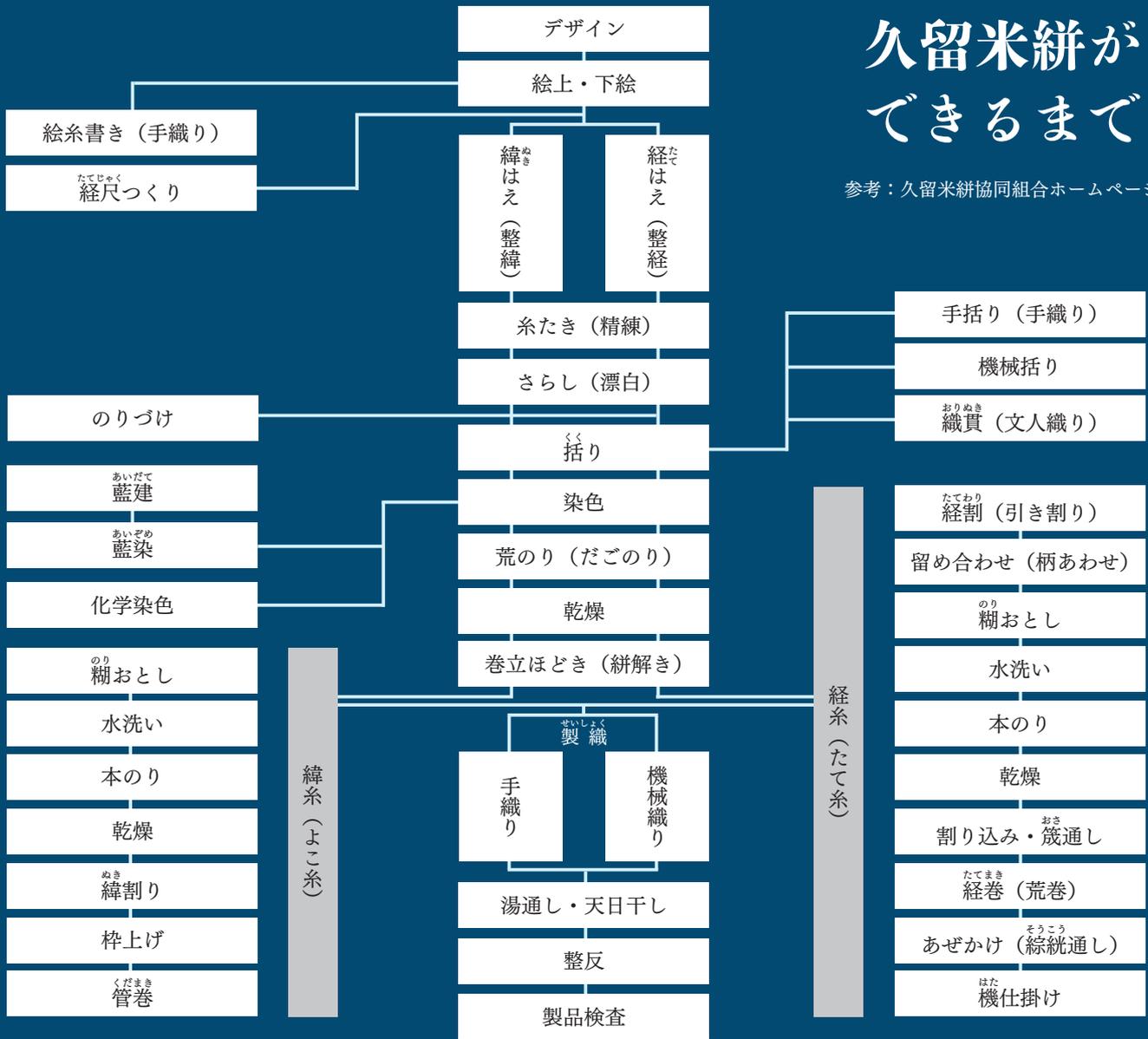
### 久留米絣の魅力

職人の手で精巧に織られる久留米絣は、緻密でありながら、素朴で温かみのあるのが特長です。

独特の風合いと着心地の良さ、使い込むほどに味わいが増すのも魅力であり、冬は暖かく夏は涼しく着れるため、多くの人に愛されてきました。

# 久留米絣が できるまで

参考：久留米絣協同組合ホームページ



## 広川町と久留米絣

久留米絣は、広川町の伝統産業でもあり、明治30年ころから盛んになっていきます。地域別に見ていくと、

【上広川地区】(明治40年)

織元数：12戸

生産反数：1万9728反

【中広川地区】(明治31年)

織元数：32戸

生産反数：3万5147反

【下広川地区】(明治41年)

織元数：19戸

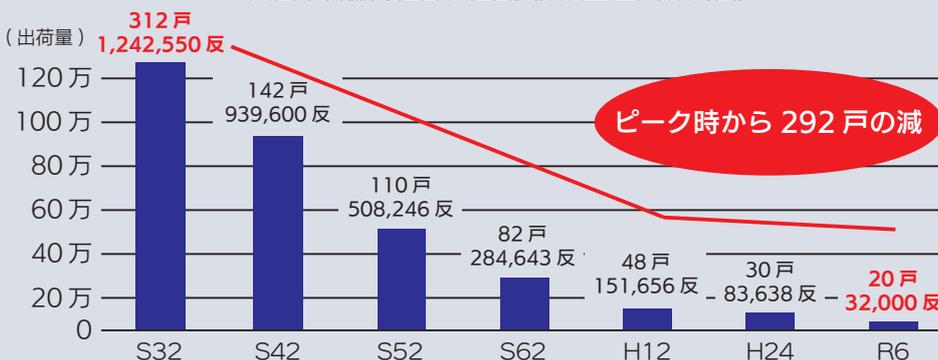
生産反数：5万787反

以上のようになり、広川町の産業の中でも重要な部分を占めていました。

## 久留米絣のこれから

多くの人に愛用されてきた久留米絣ですが、海外文化の流入などの影響を受け、昭和後期ごろから少しずつ衰退していきまます。さらに現在では、生産者の高齢化や後継者不足などの課題を抱え、厳しい局面を迎えているのが現状です。そのような中、伝統産業である久留米絣を発展させていこ

～ 久留米絣協同組合の組合員数と生産反数の推移 ～



うと、各織元は久留米絣の「これから」を考え、それぞれの思いや方法で、さまざまな取り組みを行っています。伝統や特産品は、地域の宝であり財産です。この機会に改めて、地場産業に目を向けませんか？

# ～それぞれの織り手が絣にかける想い～ 久留米絣を染め織るひとびと

広川町の久留米絣産業に携わる人に、仕事にかける思いなどをインタビューしました。



## 憧れの人から教わったこと

私が20歳のころは生産量が伸びている時代であり、藍染めは濃紺が基本で、人造藍を補充して短時間で濃く染めていました。そのため、色落ちしやすく、着ると青くなるのが当たり前でした。そのような中、人間国宝である松枝玉記さんの淡い藍の色に憧れ、藍染めの基本を教わりました。その教えをベースに、色落ちしない藍染の研究を続けていきました。

## 良いものは安く売らない理由

時代と共に間屋を通じての販売が困難になり、約30年前から自販へ舵をきりました。しかし、最初は価格面での折り合いがつかず、久留米絣の技術と単価について丁寧に説明していきました。正当な利益がないと、安く上がる手法でしか物をつくらなくなってしまう。今では理解してもらい、取り引きが続く関係になりました。



藍染絣工房

4代目 山村健さん



## 二人が大切にしていること

広川町で育ち、それぞれのフィールドで社会人となり、二人で工房を継ぐことを決めたのは、今から4年前のことです。違う畑で経験値を積んできたからこそ、お互いの得意分野をかけ合わせ、今の環境をつくり上げてきました。そんな私たちが大切に行っていることは、「人とのつながり」です。人とのつながりは、多くのチャレンジを可能にし、困難を乗り越える支えになります。

## 久留米絣をもっと身近に

地域の人、そして世界中の人が来てくれる場所にするために、絣をもっと身近に感じてもらえるような取り組みを積極的にしていきたいと考えています。工芸はもっと身近なものであるべきです。違う業界の人たちと組み、新しい久留米絣の道も模索していきます。



藍森山 森山絣工房

6代目 森山浩一・典信さん





かすり工房「藍の詩」 富久織物  
4代目 富久洋さん



### 大切なのは顧客の要望に応えられるかどうか

小学2年生のときにバイクのデザインに興味を持ち、工業デザイナーを目指し勉強しました。そのときの知識や経験が、今に生きていると感じます。富久織物の久留米絣は「特長がないのが特長」で、機械織り・手織り・藍染め・化学染色をすべて行っています。注文をもらってつくる以上、お客さまが満足できるかどうかが大事。主観を捨て、どこまで相手の要望に応えられるかが重要であると考えています。

### 絣産業を未来へつなぐために

産地が成長する上で、誰一人置き去りになってはいけません。今までこの産業が続いてこれたのは、それぞれの立場で役割を分担し、協力し合ってきたからこそであると考えています。時代や状況が変わっても、感謝や思いやりを大切に、そして産業を未来へ繋ぐためにも絣を織り続けます。



久留米絣広川町協同組合  
園木新一郎さん



### 作り手の喜び

私が久留米絣業界の門をたたいた19年前は、まだ試作機だった緯糸の括り機に専門の職人がついておらず、一部の関係者が必要な時に動かしていました。織元さんや経括りの職人さんから話を聞き、技術を磨きました。柄のデザインをすることもあるのですが、自ら括った糸が織られていく様子を目にできるのがうれしい。そのほか、その反物で着物を仕立てようか迷っている人に出会ったり、絣ファンの女性から声を掛けられたり、お客さまの声はうれしいです。

### 女性も活躍できる仕事に

子どもたちの手織り体験で柄が現れたら楽しいだろうなど、自宅で少しずつデザインや実験をしています。力仕事だった括り作業も、機械化で女性もできる仕事になりました。今年も、経括りの現場に20代の女性に加わり、今後が楽しみです。



野口織物  
3代目 野口泰光さん



### 代名詞「チヂミ織」

黒木町の出身で、サラリーマン時代を経てから27歳のときに野口織物に入りました。何の知識もない、真っ新な状態でのスタート。義父さんは手取り足取り教えてくれるわけではなく、見て自分でやって失敗して覚えていきました。「チヂミ織」は、20年ほど前に問屋さんからのリクエストで始めた手法で、今では野口織物の代名詞になりました。生地の厚みの調整など、試行錯誤の末、現在の肌触りにたどり着きました。

### 商売としてのものづくりへの考え方

商売でやっている以上、ものづくりへの考え方はシビアです。いいものができたときに「ああ良かった」とは思うけど、売れなければ意味がない。反響の薄い柄はなるべくつくらないことが基本で、売れた柄の図案を軸に、色バリエーションややり方を変えて表現していく事が多いです。

### 王道の糸づかいと豊富な色表現



野村織物(有)

4代目 野村周太郎さん



野村織物の特徴は、何といっても「色の豊富さ」です。あえて昔からの糸づかいにこだわり、色柄での表現を続けています。年間に50〜70もの新柄を生産できるのは、自社で染色を行っているからであり、お客さまの要望に応えられるスピード感を大切にしています。新たな取り組みとして、昨年からはチェック柄や文人柄の生産もしています。

### 外から人が来るような町へ

広川町は住みやすい町ですが、遊べる場所がないため、休日は町外に出してしまうことがほとんどです。飲食店があり、子どもが遊べる場所がある。そのような、一日を完結できる町づくりができれば、外からも人が来るようになります。かすり祭りなど、事業者が一堂に会するイベントは、町をPRする機会にもなるため、そういった場で、広川町の知名度アップに貢献していきたいと思っています。

### トライアンドエラーで積んだ経験



野村雅範絣工場

4代目 野村雅範さん



私が仕事を始めたころは、手取り足取り教えてもらえる時代ではなく、失敗しながら少しずつ自分で覚えていくしかありませんでした。私が30歳になる前、先代である父が他界したときが一番大変だったのを覚えています。特に機械の扱いに苦勞し、分からないことは産地の先輩に聞いて回り、手探りで織機の調子を覚えていきました。ひたすら「やってみて、失敗して、学んで」を繰り返して、コツコツと経験値を積んでいきました。今では、毎朝織機の調子を見ることから、私の一日が始まります。

### 焦らず地道にやっていくことが大事

作り手として、やはり頑張っ作ったものをお客さんが喜んで買って帰ってくれるのが何よりうれしいです。そのためにも、何事も焦らず地道にやっていくことが一番大事だと思います。

### 一人でも多くの人に魅力を知ってもらいたい



丸亀絣織物

5代目 丸山重俊さん



久留米絣の価値を多くの人に知ってもらいたいという思いから、自宅の蔵を活用し、今年の3月に販売と久留米絣を体験できる店舗をオープンしました。自社では化学染料による染色を行っているのですが、化学染料での染めは体験しにくいいため、天然染色の実験を始めました。そのほか、屋久杉や八女茶で染めた糸を織り上げて、その風合いを活かし方の検証などもしています。

### 若い世代の人が憧れる職業に

作り手がいないと伝統工芸品はつくれません。そのためにも、従業員と一緒に楽しんで働ける環境づくりに取り組んでいます。最近、自身のデザインが凝り固まってきていると感じる事があります。若い世代の感性は物づくりの際にとっても重要で、指摘してくれる人は大歓迎です。世代の垣根を越え、多くの人とつながりたいと思います。

## 技の伝承に業界全体で取り組みたい



山村かすり工房

4代目 山村善昭さん



久留米市城島町の出身で、28歳のときの結婚で広川町に移住し、義父から久留米絣を学びました。藍染グラデーションと経緯絣が山村かすり工房の特長であり、経緯絣の技の伝承は、とても重要なことであると考えています。後継者を育てることは業界全体で取り組む必要があり、各織元の得意な分野を産地内の養成所で一通り学び、一人前になった若手が各織元に就職する。そのような仕組みづくりができれば、後継者不足の解消につながるのではないのでしょうか。

## 訪れてもらえる広川町にするためには

広川町は、観光資源や特産品がたくさんあるのに生かされていらないように感じます。業種にとらわれず、広川町のみんなで盛り上げていくことが大切であり、若い人が生活する未来の広川町がより良いものになるよう考え続けています。

## 灰汁発酵建てへのこだわり



(有)久留米絣山藍

4代目 山村省二さん



山藍の久留米絣の特長は、合成物は使わず、天然素材のみで藍を建てる藍染めや草木染めでの染色にあります。見極めや管理は非常に難しいですが、天然藍で染める魅力は「タデ藍」という、植物のさまざまな要素が溶け込んでいるところにあります。見る角度で藍の色味が違って見え、深い色合いの中に透明感があるのです。藍を通じて、他産地との交流も積極的に行っています。

## 外から来た人の刺激

外から飛び込んできた人間は、最初から環境がそろっている人間とは気構えが違います。そんな人たちが広川町で頑張っていると「こちらも頑張らないと」とよい循環が生まれます。地元の人だけでは、考え方が限られてしまう。後継者問題を考えるとき、全国から若い人に来てもらえるよう「久留米絣を学べる学校」があれば良いと思います。

## 楽しいことをやらないと続かない



(有)坂田織物

3代目 坂田和生さん

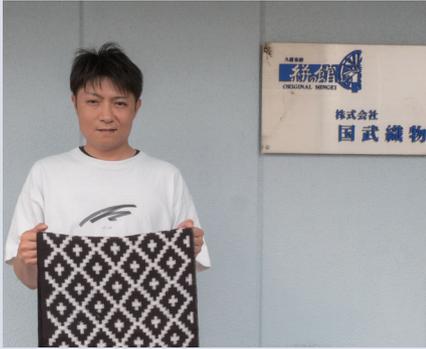


坂田織物では、カフェの併設やレジデンスの長期受け入れ、工場見学などの取り組みをしていますが、そのキーワードは、すべて「楽しい」ことにあります。産業継承の使命感はとても大事なことでありますが、長く続けるためにも、100パーセントの力で走り続けるのは難しいことです。今やっている仕事を次世代に引き継ぎ、絣を残していきたいからこそ、楽しい経験として伝える必要があると考えています。

## みんながって、みんないい

緻密な図案に沿って、職人が忠実に括っていく絣ですが、どれだけ丁寧な作業を経ても、何故か柄のズレやかすがすがしが生じます。でも、みんな同じじゃないところが面白い。个性的で全然OKなんです。そんなところが海外でも評価されているのではないのでしょうか。

## そのほか、広川町の絨商品取り扱い店



(株) 国武織物  
住所：広川町大字久泉 472-1



楚々 -soso- (有)オオヤブ  
住所：広川町大字広川 231



ひろかわ藍彩市場  
住所：広川町大字日吉 1164-6



## 第33回 広川かすり祭 を開催します！

# 産地だから出会えるものがある。

▼昨年のデザインコンテスト  
優勝者の生地



▼昨年のデザインコンテスト  
表彰式の様子



▼毎年恒例「かすりんピック」。  
今年も開催します！



「絨デザインコンテスト」や「かすりんピック」など、  
たくさんのイベントを用意しています。  
親子でぜひご参加ください。

- 日時 9月20日(土)・21日(日)、9:00～16:00  
(悪天候の場合は9月27日(土)・28日(日)に延期)
- 場所 広川町産業展示会館
- 主催 広川かすり祭実行委員会 (広川町観光協会)



☎ 0943-32-5555  
 ☎ 0943-32-0344